

第2章 計画の基本的な考え方



1. 基本理念

次世代育成支援行動計画は10年間の計画であり、また村の子育て施策においても大きな目標の変更はないことから、後期計画においても前期で掲げた理念や目標を引き続き掲げます。

すべての子どもがすこやかに育ち、 また両親が安心して楽しく子育てのできる村

子どもたちは限りない可能性を持って生まれ、家庭や地域、学校等における様々な体験・交流・教育を通して、一人ひとりが豊かな個性や人間性、社会性といった「生きる力」を身につけていきます。次代を担う子どもたちの可能性を伸ばし、のびのびと、そして健やかに育っていくように、子どもたちの主体的な成長を支える環境づくりを目指します。

また、子育ての基本的な場である家庭においては、親が心と体にゆとりを持って子育てできることが理想の姿です。そのためには、地域が子育て家庭にとって「安全」・「安心」な場である必要があることから、保健・医療・保育等サービス、教育、生活環境などにおいて、すべての子育て家庭に配慮した整備を行い、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを目指します。さらに、隣近所のつきあいから地区の活動等、地域ぐるみでの子どもとの関わりによる子育て支援の継続により、子どもが健全に育つ村づくりを目指します。

2. 計画の視点

(1) 子どもの視点

子どもの健やかな成長を育むために、子どもの幸せを第一に考え、家庭環境の違いや社会適応性・障害の有無などで子どもが差別されることがないように、子どもの権利を擁護することに努めます。また、子どもの利益を最大限に尊重するという意識を住民一人ひとりが認識し、すべての子どもがのびのび生活し、心豊かに育つまちづくりを推進します。

(2) 次代を担う人づくりの視点

子どもは次の時代の担い手であり、様々な交流や体験活動等を通し、豊かな人間性と社会性を育んでいきます。このため次代の人づくりの視点に立ち、このような機会の提供を支援するとともに、子どもが将来自立して家庭を持ち、子育てを行うために大切な知識や意識を育む機会を設けるなど、次代の親づくりのための取り組みを展開します。

(3) 親育て（親の子育て力の向上）の視点

家庭は子どもの人格形成の上で極めて重要であることを親自身が強く認識し、改めて子育てについて考えていくことが必要です。そのため、子育てに対する親の心構えや男女が協力して行う子育てについての啓発・学習機会を設けるなどの取り組みに努めます。また、子育て家庭が抱える様々な不安や悩みを解消するために、家庭や子育ての問題を地域の課題として捉え、地域ぐるみで子育て支援に向けた取り組みを推進し、家庭生活にゆとりが生まれるよう「親育て」を支援していきます。

(4) 社会全体による支援の視点

子育ての基本的役割は家庭にあるものの、子どもの健やかな成長のためには、地域や企業、関係機関、行政等がそれぞれの役割を担い、連携と協働により子育てを地域社会全体で行っていくことが重要です。地域の特性を踏まえながら、地域社会による子育て機能や教育力の向上を図る取り組みを推進します。

(5) サービス利用者の視点

核家族化の進行や共働きの増加、価値観の多様化などにより、子育て家庭の生活実態や子育て支援サービス等へのニーズも多様化してきています。このような多様なニーズに柔軟に対応できるように、利用者の視点に立った事業や施策の展開を図ります。また人材育成や情報公開等により、サービスの質を向上させていく取り組みを進めます。

3. 基本目標

- 基本目標1 地域における子育ての支援充実
- 基本目標2 子どもを健やかに生み育てるための保健・医療の充実
- 基本目標3 子どもの心身の健やかな成長に資する教育環境の整備
- 基本目標4 子育てを支援する生活環境の整備
- 基本目標5 職業性活動と家庭生活との両立の推進
- 基本目標6 子どもの安全の確保
- 基本目標7 子どもの権利擁護と要保護児童への支援

4. 施策の体系

基本理念

基本目標

施策の方向性

